

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 5年 6月 24日

群馬県知事 あて

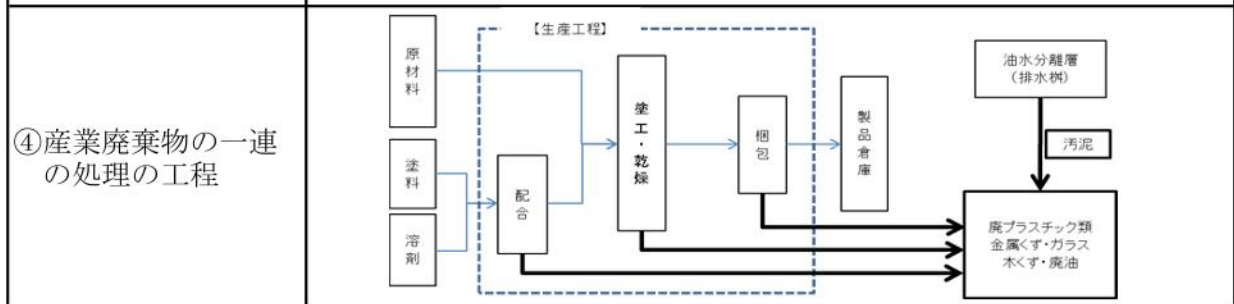
提出者 〒379-1204  
 住 所 群馬県利根郡昭和村森下2080-14  
 氏 名 藤森工業株式会社 昭和事業所  
 事業所長 野沢 勝弘  
 （法人にあつては、名称及び代表者の氏名）  
 電話番号 0278-50-3964

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	藤森工業株式会社 昭和事業所
事業場の所在地	群馬県利根郡昭和村森下2080-14
計画期間	令和 5年 4月 1日 ～ 令和 6年 3月 31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

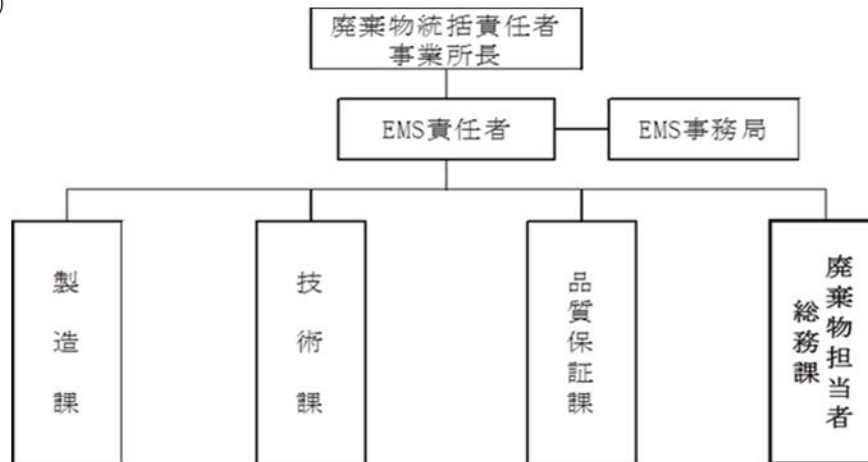
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：プラスチック製品製造業
②事業の規模	生産高：23,379百万円（令和4年度実績）
③従業員数	206名（令和 5年 4月 1日現在）



（日本産業規格 A列4番）

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	<b>【前年度（令和4年度）実績】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	981 t	72 t
	(これまでに実施した取組) 発生抑制：製品歩留向上・作業ミスゼロ化 再生利用：有価売却化推進		
※原単位（排出t/生産高億円） ・廃プラ「4.196」 廃油「0.308」 木くず「0.081」 金属「0.363」 ガラス「0.008」 汚泥「0.038」			
②計画	<b>【目標】 令和4年度実績の原単位1%削減</b> 原単位（排出t/生産高億円）		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	排出量	971 t	71 t
	(今後実施する予定の取組) 発生抑制：製品歩留向上・作業ミスゼロ化 再生利用：有価売却化推進 (廃プラ：プレスゴミの有価売却化を検討)		
※原単位目標（排出t/生産高億円） ・廃プラ「4.154」 廃油「0.305」 木くず「0.080」 金属「0.359」 ガラス「0.007」 汚泥「0.031」			

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 大部分を占める「廃プラスチック類」について、 プレスごみ・巻きごみに分別しており、 巻きごみについては、一部有価売却を実施
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 有価売却可能な巻きごみ比率向上。 プレスごみについても今後有価売却を実施できるよう検討。

木くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥
19 t	85 t	2 t	9 t

木くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥
18 t	84 t	1.6 t	7 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	- t	- t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全処理委託量	981 t	72 t
	優良認定処理業者への処理委託量	443 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	2 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	536 t	72 t
	(これまでに実施した取組)		
<p>大部分を占める「廃プラスチック類」について、プレスごみ・巻きごみに分別されるが、巻きごみについては、一部有価売却を実施している。 産廃の場内滞留を防ぐため、数社に分散し委託処理を実施。</p>			

- t	- t	- t	- t

- t	- t	- t	- t

木くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥
19 t	85 t	2 t	9 t
0 t	0 t	0 t	0 t
19 t	85 t	2 t	9 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画	<b>【目標】</b>		
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック類	廃油
	全処理委託量	971 t	71 t
	優良認定処理業者への処理委託量	388 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	97 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	486 t	71 t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>今後も生産量増加の計画である為、これまで通り、廃棄物の滞留を防ぐ為、新規業者の開拓は継続実施。</p> <p>有価売却可能な巻きごみ比率向上及び、プレスごみについても今後有価売却を実施できるよう検討。</p>			
※事務処理欄			

木くず	金属くず	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	汚泥
18 t	84 t	1.6 t	7 t
0 t	0 t	0 t	0 t
18 t	34 t	1.6 t	7 t
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t



備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。